

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 64.8%, 県 69.7%)

対県比 93.0 %

学力定着実態調査 本年度正答率

本校 67.1 %
全国 64.8 %

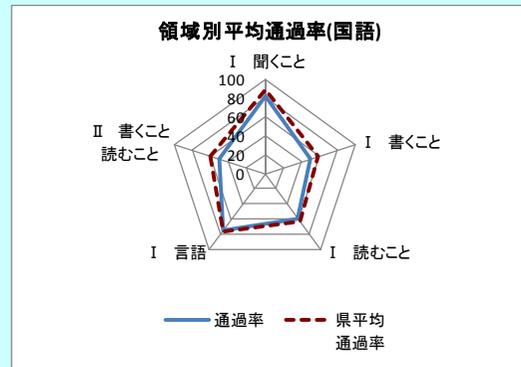
対全国比 103.5 %

本年度の結果について

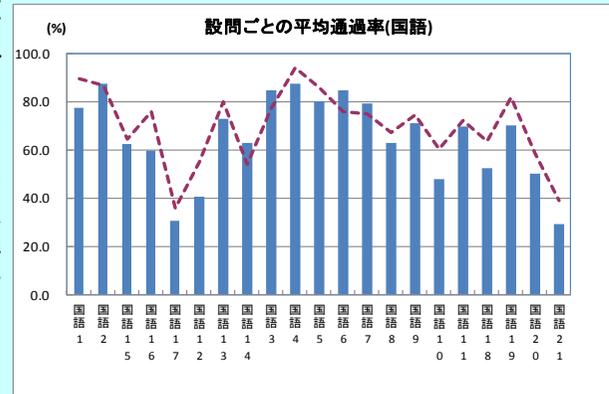
○ 国語の結果において、タイプⅠは68.2%(県71.8%)、タイプⅡは50.4%(県60.6)の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容については定着が図られていると考えられるが、活発な問題の定着がかなり低いことがわかる。

○ 昨年度は、「叙述のしかた」「主語述語の関係」「登場人物の心情の把握」などに課題が見られた。そこで、基礎的事項の繰り返しや、心情の変化を言葉でまとめる学習をしてきた。その結果として、「叙述のしかた」「主語述語の関係」については改善が見られた。「心情の把握」で課題となっていた、字数以内で適切に書くという力は、まだ弱いといえる。

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度正答率

A問題

本校 80.2 %
全国 75.6 %
県 76.6 %

B問題

本校 69.6 %
全国 66.5 %
県 67.9 %

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比

100 %

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】(四2)「文章の構成」(59.7%《県平均 -15.9%》)

報告書の構成の順序「1目的」「2取り上げた理由」「3調査の方法」「4調査の結果」「5考察」「6まとめ」「7参考資料」の順になるところが、「5考察」にあたる部分を間違えている生徒が23.4%と高く、結果の予想と答えている誤答が多い。報告書の構成を理解していないという課題とともに、5の内容の記述に「……と考える。」という記述があるところから、「予想」と捉えたと考えられるため、全体の流れや報告書の目的を理解する力にも課題がある。

【課題2】(三3)「段落相互の関係の把握」(40.3%《県平均 -14.6%》)

問題の文章が、本文のどの段落のあとに入るかという問題、段落の始めの接続詞「しかし」の働きに着目して順序を捉えることができていないという課題がある。

全国学力・学習状況調査

【課題1】(B問題 2三)(46.7%《県平均 -1.9%》)

宇宙エレベーターについて調べるために必要な本の探し方が書けていない生徒の割合が42.5%と高い。普段の授業で図書室を利用する機会が少なく、利用のしかたを指導していないという課題がある。

【課題2】(B問題 1一)(75.0%《県平均 -2.0%》)

ちらしからわかる展示のねらいの理解ができていない。注意深く資料を読み取る力や、根拠をしっかりとって文章の内容を捉える力に課題がある。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値(75%) 実施後数値(%)

国語の授業の中で報告書を作らせる際に、全体の流れの中で構成が決まっていることを理解させる。また、他教科や学年と連携し、授業や総合的な学習の時間にレポートを作成させる際に、構成をきちんと立てることを指導していく。

【課題2】目標値(55%) 実施後数値(%)

説明的文章の読み取りの学習の始めに、段落の並べ替えを行う。その際には、段落の始めの接続詞に着目すること、段落の中のキーワードに着目することとし、根拠を持って段落相互のつながりが説明できるようにする。

全国学力・学習状況調査

【課題1】目標値(55%) 実施後数値(%)

図書室利用の機会をつくり、利用のしかたを指導し、実際にいろいろな方法で資料を探して調べさせる。

【課題2】目標値(78%) 実施後数値(%)

文章を比較して読む活動を通して、それぞれの文章で伝えようとしていることを、文章の内容を根拠にしなが捉えさせ、説明できるようにする。

※今後の改善計画については別紙

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校62.1%, 県66.8%)

対県比 93.0 %

学力定着実態調査 本年度正答率

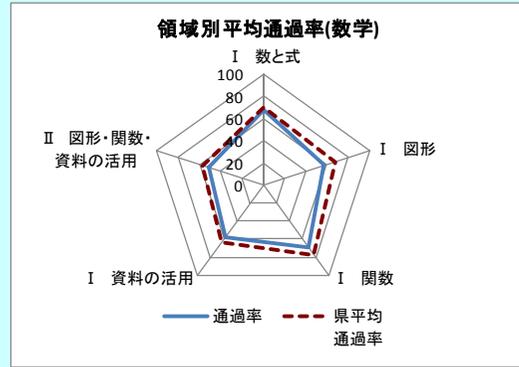
本校 69.4 %
全国 71.9 %

対全国比 96.5 %

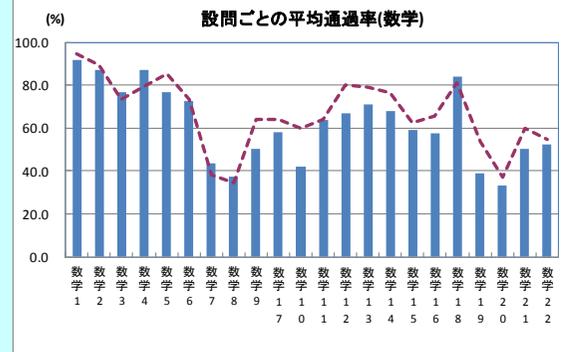
本年度の結果について

○全体的な傾向(タイプI,IIの状況,よい傾向はどこか)について
 数学の結果において,タイプIは65.2%,タイプIIは51.6%の通過率となっており,ともに課題がある。良い傾向としては,基礎的な計算問題の通過率は比較的高かった。
 ○昨年度の課題への取り組みについて
 昨年度は,「表から中央値を求める問題」に課題(通過率が30.8%)が見られた。そこで,中央値とは,階級の中央の値ではなく,資料の値を大きさの順に並べたときの中央の値であることを,色々な表を使って確認し,練習・理解させるような指導の工夫を行った。その結果として,今年度の「中央値の意味」を問う問題の通過率が58.9%となった。

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度正答率

A問題

本校 64.6%
全国 62.2%
県 62.1%

B問題

本校 46.1%
全国 44.1%
県 44.8%

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比 100 %

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】10 (2) 正答率 (33.1%)

事象の解釈と表現の問題で,答えは正しいが,その理由が間違っている誤答(46.0%)が多かった。事象を式の意味に即して解釈し,その結果について考えることに課題がある。

【課題2】2 (2) 正答率 (37.1%)

文字式の表し方の問題で,基準量である文字をかけ合わせていない誤答(48.4%)が多かった。比較量は,(基準量)×(割合)で求められることの理解に課題がある。

全国学力・学習状況調査

【課題1】数学A 9 (2) 正答率 (31.7%)

比例の式について,xの値の増加に伴う,yの増加量を求めることができていない。

また,無解答率(13.3%)も高い。

【課題2】数学B 5 (1) 正答率 (44.2%)

資料の傾向を的確に捉え,判断の理由を数学的に表現できていない。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値(65.0%) 実施後数値(%)

問題の答えが正しいかどうかだけでなく,その理由や根拠も確認するような指導の工夫を行う。通過率30%未満の生徒へは,既習事項(根拠となるキーワード等)を書いた掲示物から選ばせるなどの支援を行う。

【課題2】目標値(70.0%) 実施後数値(%)

比較量は,(基準量)×(割合)で求められることを,図や具体的な数字でも確認することで,通過率30%未満の生徒も理解できるような工夫をしていく。また,関係を文字式で表した後に,具体的な数を代入することで,その文字式が正しいことを確かめることができることを例示し,自分自身で解答が正しいかチェックできるような指導の工夫を行う。

全国学力・学習状況調査

【課題1】目標値(60.0%) 実施後数値(%)

無解答率も高いことから,「増加量」の意味を理解できていないと考える。授業の中で,数学的な用語の意味などをしっかり確認させる。関数領域では,これまでの既習事項を確認できる場を設定する。

【課題2】目標値(60.0%) 実施後数値(%)

資料やグラフからその事象の傾向を捉えられるように指導する。グラフの形状や資料のどこに着目するのかなどいろいろな視点で考察できる指導の工夫を行う。

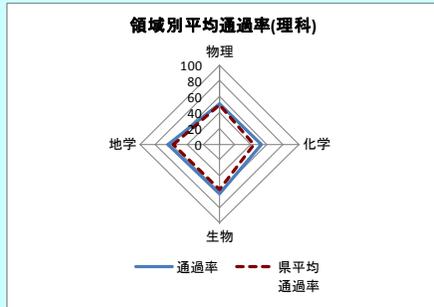
※今後の改善計画については別紙

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 57.3%, 県51.8%)

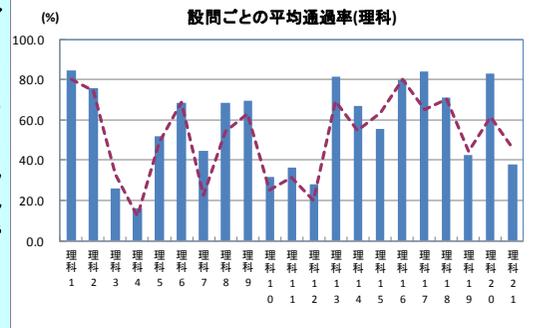
対県比 110.6 %

本年度の結果について

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



学力定着実態調査 本年度正答率

本校 68.3 %
全国 64.0 %

対全国比 106.7 %

○全体的な傾向 (タイプ I, II の状況, よい傾向はどこか) について
理科の結果において, タイプ I は 61.5%, タイプ II は 59.3% の通過率となっている。この結果から基礎的・基本的な内容については定着が図られていると考えられるが, 一方では, 知識を活用し, 思考したことを表現する内容において課題が見られる。

○昨年度の課題への取り組みについて
昨年度は, 生物の分野におけるタイプ I の通過率が 17.7% という結果であり, 植物に関する知識の定着に課題が見られた。そこで, 植物に関する復習を授業時間内で行い, 既習事項の復習を繰り返し取り組んだ。その結果, 本年度の生物の分野におけるタイプ I の通過率は 68.0% という結果に表れている。

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題 1】 ③ (2) (44.4%)

結晶を取り出すことが出来ない理由をグラフのデータを参考に「溶解度」と「飽和水溶液」という言葉を使って説明する設問において, 正答率 16.9%, 準正答率 28.2%, 無答率 26.6%, 誤答率 28.2%であったことから, キーワードを用いて自分の考えを説明することに課題があると考えられる。

【課題 2】 ④ (2) (16.1%)

物体にかかる重力を表す矢印から, 机から受ける抗力の大きさを作図で表す設問において, 正答率 16.1%であった。力を矢印で表す際に必要な「力の大きさ」「力の向き」「作用点」のうち, 作用点の位置に関する誤答率が 29.8%であったことから, 文章や図から情報を読み取り, 作図で表すことに課題が見られる。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題 1】 目標値 (80%) 実施後数値 () %

実験を行う際に, グラフや結果のデータから情報を読み取り, 分かることを自分の言葉で記述させることが出来るような指導の工夫を行う。例えば, 数日間の気象データを参考に, 「風向」「気圧」「気温」「湿度」の移り変わりからどのような前線が通過したのかを, それぞれの言葉を重要語句として用いて説明させる工夫を行う。

【課題 2】 目標値 (60%) 実施後数値 () %

作図を行う際のきまりを明確にし, それぞれのきまりを設定している意味を正しく理解し, 状況に応じて作図を行うことが出来るように指導の工夫を行う。例えば, 磁石にはたらく磁界について作図する際に, 「矢印の始点」の位置, 「矢印の向かう方向」「矢印は交差しない」というきまりをもとに, 磁石の個数や磁極を反転させるなどのあらゆる状況においてもきまりを正しく作図させる工夫を行う。

※今後の改善計画については別紙

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 66.4%, 県69.6%) **対県比 95.4%** **本年度の結果について**

領域別平均通過率

設問ごとの平均通過率(英語)

○全体的には、タイプⅠの通過率(70.5%)とタイプⅡの通過率(43.8%)に大きな差が見られた。タイプⅠの結果から、基礎的・基本的な内容の定着も十分とは言えないが、基礎的・基本的な内容が身につけている生徒も、知識・技能を活用することができていないと考えられる。

○無回答率が低く、全体的に意欲が見られる。単純な文法事項や、自分のことについて書く問題では、自信を持って表現することができる生徒が多かった。

○領域別に見ると「聞くこと」・「読むこと」など理解に関する領域の通過率が低く、そのことからタイプⅡの「読みとった内容をもとに書く」など、4技能を統合した設問に課題が見られた。



重点課題 **重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)**

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】 11-1 通過率(22.6%)

情報を基に、それに関する質問を考え、英文を書くことができていない。無回答の生徒が29.0%いる。誤答については、疑問詞(what)を用いているが、その後の語順に誤りがあったり、be動詞の疑問文の作り方と一般動詞の疑問文の作り方を混同するなど疑問文の知識に関するつまずきが見られる。

【課題2】 11-2 通過率(42.7%)

根拠を持って、理由を読み取ることができていない。誤答については、部分的には読み取れているものの、細かい部分がきちんと読めていなかったり、答えの日本語が意味の通らないものになっているというつまずきが見られた。

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】 目標値(50.0%) 実施後数値()%

文法指導の際に、単純な疑問文(Yes/No)の形だけでなく、さらに詳しく聞くための疑問詞を用いた疑問文の作り方(疑問詞が先頭、その後ろはyes/no疑問文の形)を指導し、場面を意識しながら、聞きたい内容を正しい疑問文で質問できるような活動を行う。例えば“Will you go to the library?”というような文だけでなく、What will you do in the library? や What kind of book will you read?など疑問詞を用いた文で相手に尋ねる練習をする。

【課題2】 目標値(55.0%) 実施後数値()%

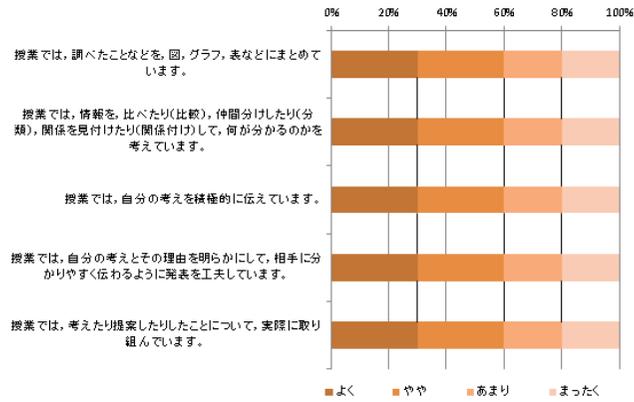
読む活動において、内容が理解できているかどうかだけでなく、「なぜそうなのか」、「どの表現からそう読み取れるのか」を考えるなど、単語や表現に注目させる指導を行う。たとえば、内容についての読み取りで、根拠となる部分に線を引かせ、ペアで交流するなどの活動や、聞き取りの活動においても、原稿を示しながらどこに答えの根拠があるかを見つけさせる活動を行う。

※今後の改善計画については別紙

質問紙調査 (「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査)

(1) 生活・学習

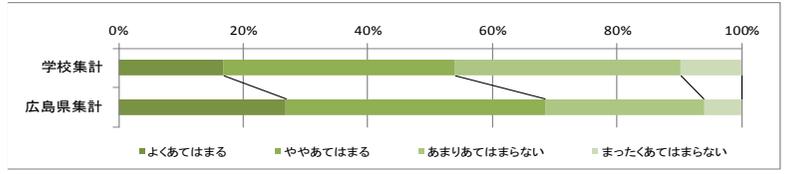
「課題発見・解決学習」(2)



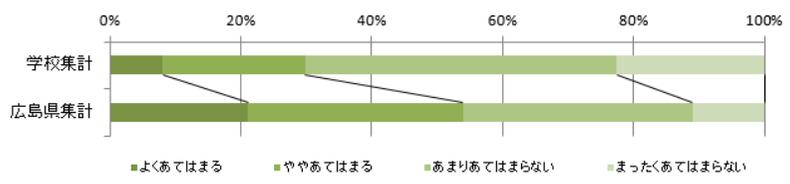
生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
『授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみよう」と思います。』の質問に対する肯定的割合が43.5% (県平均 -22.0%)であった。	全授業において『課題の設定方法』を工夫し、生徒の興味関心を引きつける導入を行う。また、演示してゴールイメージを持たせ、主体的に学習に取り組ませる。	全学年	65%	生徒アンケート調査	2学期末		

(2) 教科

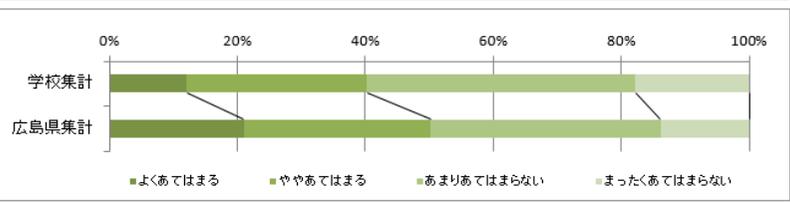
国語の授業では、段落と段落のつながりや文章全体の組立てに注意して文章を読んでいます。



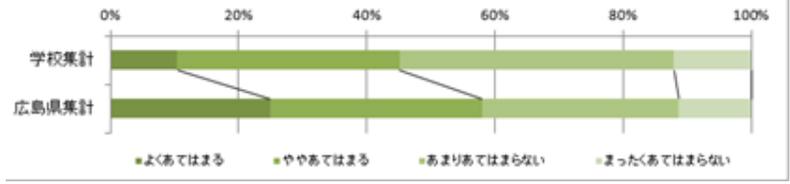
数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。



	生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	「国語の授業では、段落と段落のつながりや文章全体の組立てに注意して文章を読んでいます。」の質問に対する肯定的割合が44.0% (県平均 -23.5%)であった。	授業において、説明的文章の読み取りの際には、段落の始めの接続詞やキーワードに注目して段落の働きや相互関係を捉える学習を取り入れる。		65%	生徒アンケート調査	2学期末		
数学	「数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。」の質問に対して肯定的な回答が29.9%であった。	授業において、話し合ったり、考え方を交流したりする機会を設ける。また、その際に何故そうなるのかを理由もつけて説明するように促す。	2	55%	生徒アンケート調査	2学期末		
理科	「理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。」の質問に対して肯定的な回答は40.3%であった。	授業において、自分の意見を持たせることが出来るように、発問の工夫や思考する術を学習する。また、発表や、思考する場面を意図的に設定し、考えを説明したり、発表したりする機会を定期的に設ける。	2	70%	生徒アンケート調査	2学期末		
英語	「英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は45.2%であった。	授業中は、語彙や文法事項の知識の定着に終始することなく、自分自身のことについて表現させる活動(自己表現活動)の中で、英語を使いながら伝え合う場を計画的に設ける。	2	60%	生徒アンケート調査	2学期末		